

# 決算説明会資料

2007年11月12日



アネスト岩田株式会社

(コード番号6381)

# 目 次

---

- I 2007年9月中間連結経営成績
- II トピックス
- III 2007年度業界見通し
- IV 2007年度通期連結業績予想の修正と配当政策
- V 参 考

# I 2007年9月中間連結経営成績

# 中間連結経営成績

(単位:百万円)	2006年 9月中間	構成比 (%)	2007年9月中間					
			計画	実績	構成比 (%)	対前年 増減額	対前年 増減率 (%)	対計画 増減率 (%)
売上高	13,248	100.0	14,500	13,713	100.0	465	3.5	△5.4
営業利益	1,721	13.0	1,800	1,609	11.7	△111	△6.5	△10.6
経常利益	1,977	14.9	2,000	1,851	13.5	△126	△6.4	△7.4
当期純利益	1,196	9.0	1,200	1,212	8.8	16	1.4	1.0

## 製品別売上高比較

(単位:百万円)

製品区分	2006年中間実績		2007年中間実績		前年同期対比	
	売上高	構成比 (%)	売上高	構成比 (%)	増減額	増減率 (%)
圧縮機	5,838	44.1	5,923	43.2	85	1.5
真空機器	792	6.0	751	5.5	△41	△5.2
塗装機器	4,557	34.4	4,863	35.4	306	6.7
塗装設備	2,060	15.5	2,175	15.9	114	5.6
合計	13,248	100.0	13,713	100.0	465	3.5

## 当社圧縮機・真空機器事業の**上期概況**と**下期施策**

2007年	上期概況	下期の施策
<p><b>圧縮機製品</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国内は、往復機や回転機のオイルフリー市場や増圧等の特定市場の強化により、市場が10%程度縮小しましたが、当社は2%程度の減少にとどまった。</li> <li>・海外市場では、スクロールコンプレッサの独自性が認知され欧州・米国・東アジア向けが伸長した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国内では、往復機は、①コスト削減による価格競争力強化により競合優位性の確保、②新規販路開拓によるシェアアップ、③特定市場向け製品開発による市場深耕を図ります。また、スクロール圧縮機の市場認知度の更なる向上を図る。</li> <li>・海外は、往復機の販路拡大を図るとともに、現地生産品の特定市場対応を推進する。スクロール圧縮機は海外新市場を開拓するとともに特定市場向けの製品開発を推進する。</li> </ul>
<p><b>真空機器製品</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国内市場では、従来の官公庁・大学向けに加え、ニッチ市場の拡販に努め、好調に推移した。</li> <li>・海外市場では、アジア・ロシア市場は伸長したが、欧米市場が低迷し、全体としてマイナスとなった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国内は、理化学・大学向けに加えて、コア技術とサービスを活かしてのニッチ対応を強化し、伸長を図る。</li> <li>・海外は、新市場開拓を強化するとともに、放射光施設に対する販売活動を継続し、さらなる販路拡大を図る。</li> </ul>

# 当社塗装機事業の上期概況と下期施策

2007年	上期概況	下期の施策
<b>塗装機器製品</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国内は、自動車業界を中心としてスプレーガンや塗料供給ポンプが堅調に推移、特に静電塗装機は大幅に売上伸長した。</li> <li>・海外は、引き続き欧米向け及び中国向けスプレーガンが大幅伸長、新興エリア向けも売上増に寄与した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国内では、静電塗装機などにおけるコンサルタント営業を拡大継続し、各製品の伸長を見込む。</li> <li>・海外は、好調を持続するスプレーガンを中心に環境対応商品である静電塗装機の伸長と新興国向け供給機器の拡大を見込む。</li> </ul>
<b>塗装設備製品</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国内では、高付加価値塗装ニーズに対応した高効率塗装システム提案を展開した。自動車部品関連は引き続き好調であったが、家電関連の特需が落ち着き、全体としては前年並みとなった。</li> <li>・一方、海外では、家電関連の海外シフトが盛んとなり、大幅に売上が伸長した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国内は、引き続き自動車部品関連の設備需要が好調を持続。高付加価値塗装ニーズに対応した高効率塗装システムを提案し、「塗装と塗布の総合コンサルテーション」を展開する販売促進活動を推進する。</li> <li>・海外も自動車部品関連と家電(IT製品)関連の設備投資が好調を継続している。日系企業を中心に国内同様の対応を図る。</li> </ul>

# 中間連結損益計算書

(単位:百万円)

	2006年中間実績		2007年中間実績		増減額
	金額	比率	金額	比率	
売上高	13,248	100.0%	13,713	100.0%	465
売上原価	8,052	60.8%	8,372	61.1%	320
売上総利益	5,195	39.2%	5,340	38.9%	145
販管費	3,474	26.2%	3,730	27.2%	256
営業利益	1,721	13.0%	1,609	11.7%	△112
営業外収益	297	2.2%	298	2.2%	1
営業外費用	41	0.3%	56	0.4%	15
経常利益	1,977	14.9%	1,851	13.5%	△126
特別利益	3	0.0%	4	0.0%	1
特別損失	20	0.1%	17	0.1%	△3
税金等調整前当期純利益	1,960	14.8%	1,838	13.4%	△122
法人税等	752	5.7%	618	4.5%	△134
少数株主利益または損失(△)	12	0.1%	6	0.1%	△6
当期純利益	1,196	9.0%	1,212	8.8%	16



## 中間連結損益のポイント

---

- ・売上高465百万円の増加 伸長率 連結3.5%、単独1.1%
  - ①塗装機専門サービス会社の新設による売上増
  - ②フランス・上海の連結子会社による売上増
  - ③新規連結対象子会社(韓国・タイ)の売上寄与
  - ④為替換算による増加
  
- ・売上原価 60.8%→61.1% 0.3ポイントの増加
  - ①売上構成比の変化(国内売上67%→61%、海外売上33%→39%)
  - ②原価率の高いサービス会社の売上増(圧縮機専門サービス会社・塗装機専門サービス会社)
  - ③新規連結対象子会社(韓国・タイ)の原価率が高い
  
- ・販管費171百万円の増加 販管费率上昇(26.2%→27.2%)
  - ①アネスト岩田における経費増
  - ②新規連結対象子会社(韓国・タイ)の経費増
  - ③塗装機専門サービス会社の新設による経費増
  - ④フランス・上海・ヨーロッパ・インドの連結子会社による経費増
  - ⑤為替換算による増加

# 連結貸借対照表

(単位:百万円)

資産の部	06年9月 末	07年9月 末	増減額	負債・純資産の部	06年9月 末	07年9月 末	増減額
<b>流動資産</b>	16,800	15,379	△1,420	<b>流動負債</b>	7,518	6,746	△772
現金及び預金	6,550	3,998	*1△2,552	支払手形及び 買掛金	3,659	3,460	△199
受取手形及び 売掛金	5,821	6,822	*2 1,001	短期借入金	369	410	41
たな卸資産	3,344	3,437	92	その他	3,490	2,875	*4 △615
その他	1,083	1,121	37	<b>固定負債</b>	3,588	3,341	△247
<b>固定資産</b>	10,311	11,344	1,033	退職給付引当金	3,398	3,055	△342
有形固定資産	4,939	5,670	*3 730	その他	190	285	95
無形固定資産	42	44	2	<b>負債合計</b>	11,106	10,087	△1,019
投資その他資産	5,329	5,629	300	<b>純資産合計</b>	16,004	16,636	631
<b>資産合計</b>	27,111	26,723	△387	<b>負債純資産合計</b>	27,111	26,723	△387

\*1 設備投資、借入返済、長期預金、自己株取得、売掛金増加等のため

\*2 塗装設備売上の期末計上による

\*3 機械・装置取得(1.9億)、東京支店建設用地取得等(1.7億)      \*4 1年内返済長期借入金返済(8.0億)

## キャッシュ・フロー計算書(要約)

(単位:百万円)

	2006年中間実績	2007年中間実績	増 減
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,631	969	*1 Δ661
投資活動によるキャッシュ・フロー	Δ872	Δ962	*2 Δ90
財務活動によるキャッシュ・フロー	Δ315	Δ1,360	*3 Δ1,044
現金及び現金同等物の増減額	438	Δ1,330	Δ1,768
現金及び現金同等物の期首残高	4,657	4,500	Δ156
現金及び現金同等物の期末残高	5,095	3,221	Δ1,873

\*1 売上債権の増加304百万円、仕入債務の減少404百万円などによるものです。

\*2 有形固定資産取得による支出の増加474百万円、投資有価証券取得による支出の増加250百万円などによる減少。

\*3 長期借入れによる支出の増加730百万円、自己株式取得による支出の増加494百万円による減少。

## Ⅱ トピックス

## アネスト岩田コーティングサービス株式会社を新設

---

2007年7月より塗装機事業の商品におけるお客様からの高度なサービスニーズにお応えするため、専門性と迅速性を追求し、事業を開始した。

今後、アネスト岩田サービス株式会社は圧縮機専門サービス会社とし、アネスト岩田コーティングサービス株式会社は塗装機専門サービス会社とする。

# 世界初・大容量 空冷ドライスクロール真空ポンプ ISP-1000 新発売

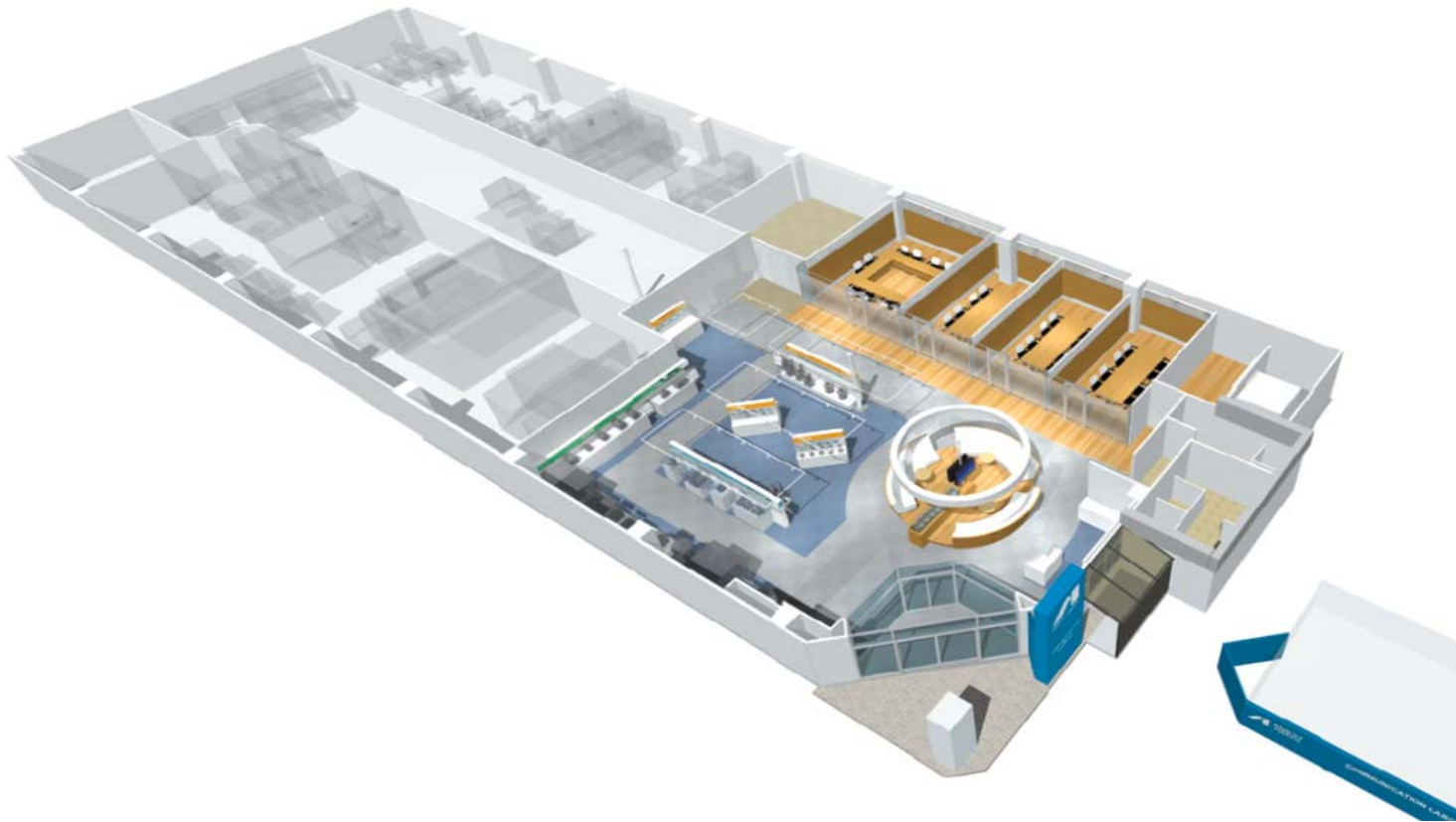
---



ドライスクロール機構では世界初の1,000L/minクラスのISP-1000を7月から販売を開始

## COMMUNICATION LABO AND SHOWROOM を開設

---

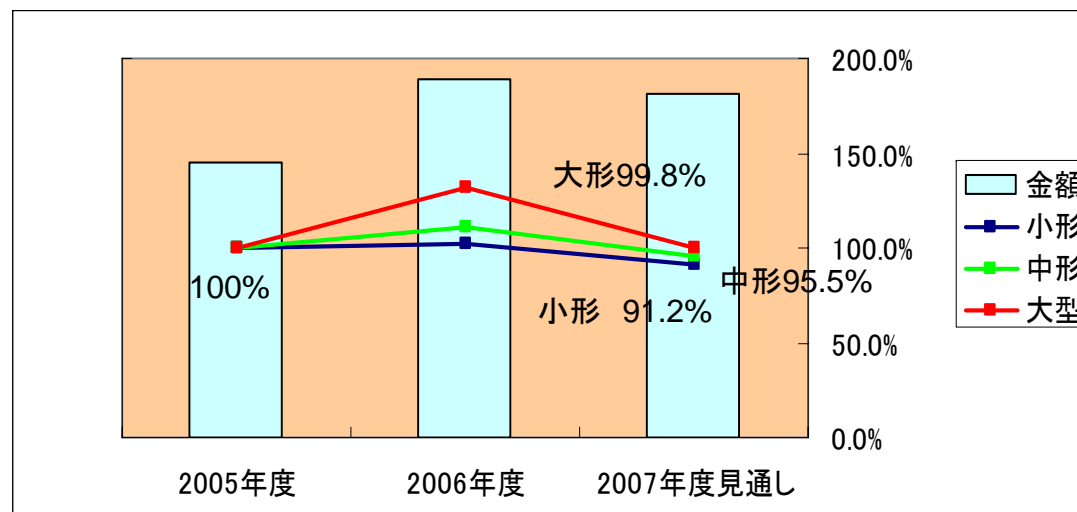


従来のラボ&ショールーム(I.L.S)が2007年7月より  
「コミュニケーションラボ&ショールーム(C.L.S)」としてリニューアルオープンしました。

## Ⅲ 2007年度業界見通し



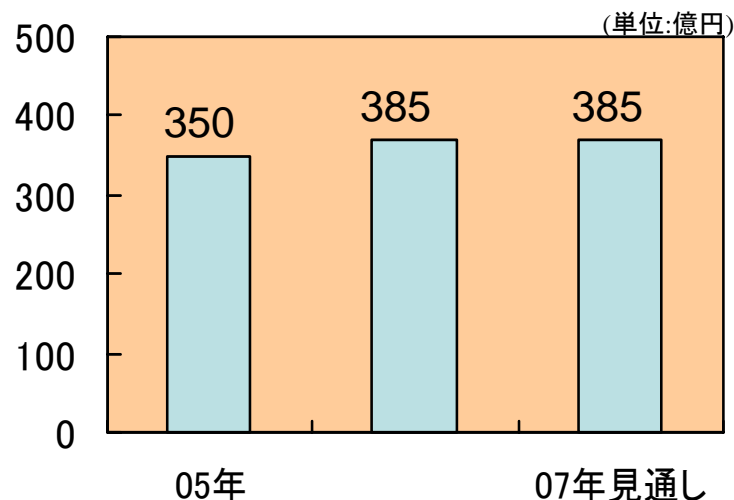
## 圧縮機の2007年度業界見通し



資料: アネスト岩田(株) 統計資料

- 上期、国内では回転機への移行が進み、往復機は低迷。原材料高騰を価格転嫁できない状況で価格競争が激化。一方、好調な工作機市場等への販路が確保出来たところは業績を伸長した。海外では、中・大形回転機を中心に需要が増加。中国では海外メーカーも含め、現地生産体制の強化が図られている。
- 下期の見通しとしては、国内は往復機の需要減少傾向に歯止めがかからず、更に原材料高騰の煽りを受け、競合各社間の価格競争も厳しさを増していくことが予想される。更にコスト削減努力が求められる一方で特定市場、好調業種への対応の可否が鍵となる。海外は、堅調に推移するが現地生産対応に加え、価格やサービス対応が求められる。

# 真空機器の2007年度業界見通し

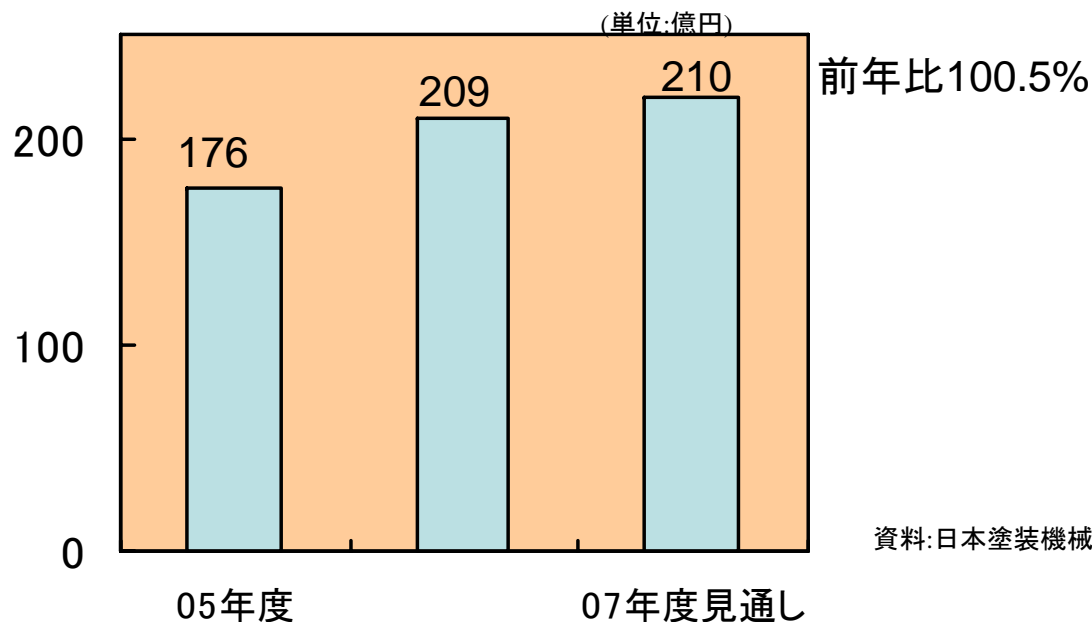


注:左表は各年の1月~12月のドライポンプ市場の集計数値

資料:日本真空工業会 統計資料

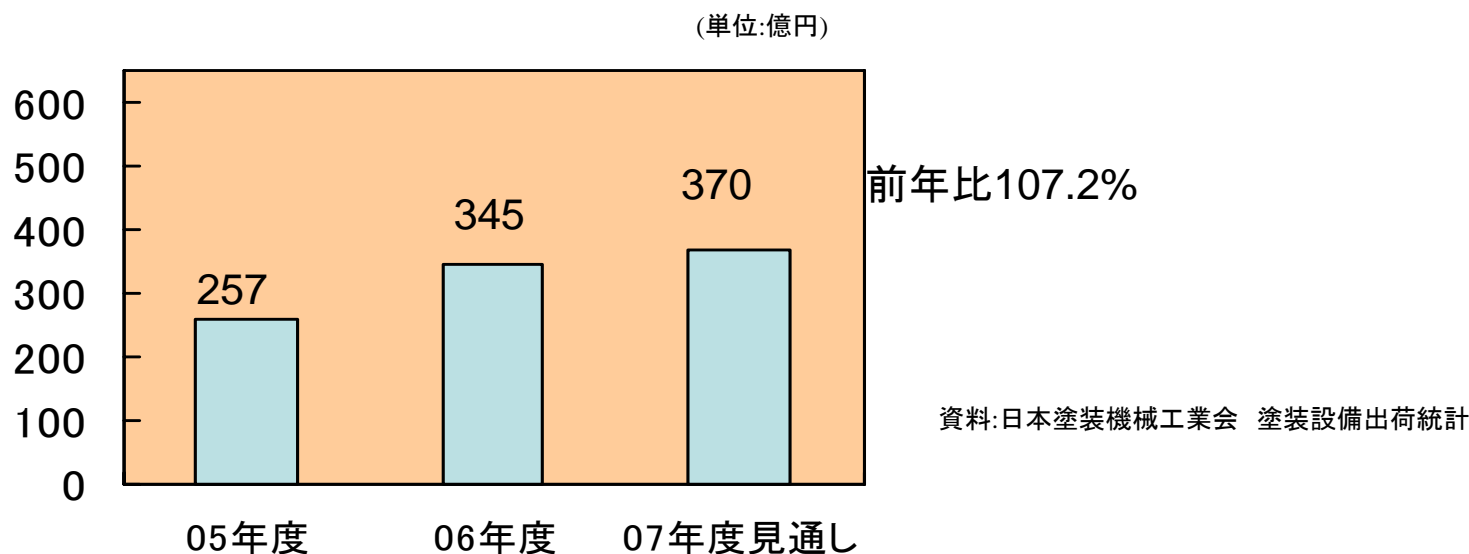
- 上期は、国内市場で今まで真空業界を牽引してきた液晶、半導体の勢いがなく業界全体として停滞気味ではあるが、理化学分野での落ち込みは小さく、小型ドライ真空ポンプへの引合は強い。海外では、国内と同様に失速傾向が見られるものの、中国をはじめとする新興国は依然として好調に推移している。
- 下期見通しとしては、国内での真空ポンプの景況は厳しく全体として大きく伸長することは考えにくい。環境保全の観点からドライ化傾向は徐々に高まっており、かつ省エネへの取組みが強まっている。また、海外は欧米における景況の波が激しく、OEMの状況にも左右されるが、短期での大きな伸長は難しい。中国やアジアは、日韓台欧米からの進出が活発で、装置の一環として真空ポンプの採用が促進されると考える。

## 塗装機器の2007年度業界見通し



- ・上期の国内は、自動車業界を中心に設備投資は堅調であり、環境保全対応商品である静電塗装機及び供給機器が拡大。海外は、欧米における環境保全対応商品の需要が、継続拡大しており、中国・アジア市場向けも拡大している。
- ・下期見通しにおける国内は、引き続き自動車業界が牽引役となり、塗装機器・設備も好調に推移すると見る。海外は、欧米市場に留まらず、中国・アジアも環境への負荷低減につながる塗装機器の需要は堅調に推移すると見る。

## 塗装設備の2007年度業界見通し



- ・ 上期の国内は、前年同期並みと予測。自動車部品関連が引き続き好調であり、更に建機関連が好調から設備投資を牽引。海外市場では、前年同期並みまたは微増傾向と予測する。国内同様に自動車部品関連が特に中国・東南アジアを中心に好調である。更に東南アジアでは、二輪関連の設備投資が好調から設備投資を牽引する。
- ・ 下期見通しにおける国内は、上期同様に自動車・自動車部品・建機関連を主体に設備投資が活発であり、また、鋼製家具業界でも設備投資の計画があり、業界全体の売上見込みは07年上期より好調に推移すると予測する。

## IV 2007年度通期連結業績予想の修正と配当政策

## 2007年度通期連結業績予想の修正

(単位:百万円)

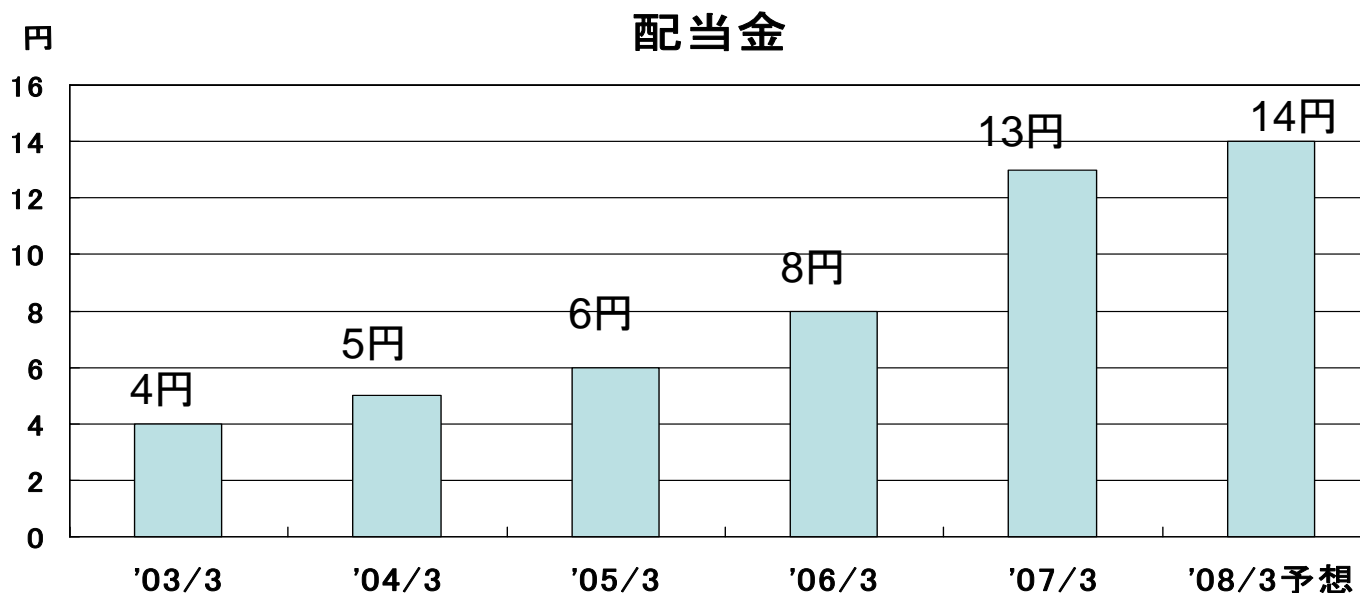
		07年度通期 当初予想	07年度通期 予想修正	構成比 (%)	増減額	増減率 (%)
売上高		29,000	28,000	100.0	△1,000	△3.4
内 訳	圧縮機	12,400	12,000	42.8	△400	△3.2
	真空機器	2,000	1,600	5.7	△400	△20.0
	塗装機器	9,800	9,800	35.0	0	0.0
	塗装設備	4,800	4,600	16.1	△200	△4.1
営業利益		3,600	*1 3,200	11.4	△400	△11.1
経常利益		4,000	*1 3,600	12.9	△400	△10.0
当期純利益		2,400	*1 2,300	8.2	△100	△4.1

\*1 中間期の結果により予想値の修正をしたが、過去最高益は変わらず。

## 配当政策等

当社は、株主の皆様に対する安定的な利益還元に努めることを重要な使命としております。

- ・ 具体的には、配当性向30%を基準としてまいります。
- ・ 今後も機動的に自己株式の消却を進め、1株当たりの純資産の増加に努めてまいります。
- ・ なお、当中間配当金は1株当たり7円とさせていただき、利益配当金につきましても、同じく7円で予定させていただきます。これにより年間配当金は1株当たり14円となり、前期に比べ1円の増配となる予定です。



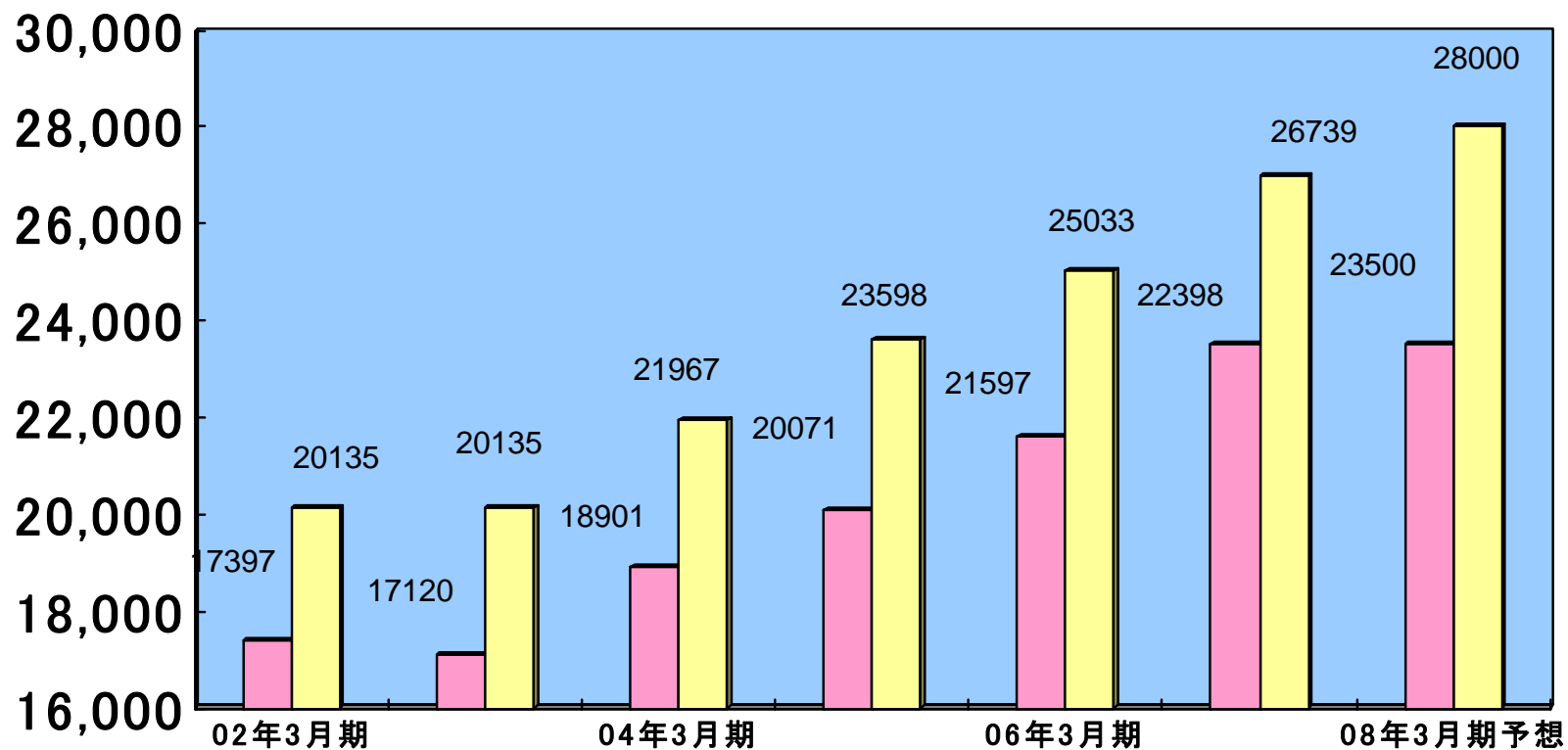
# V 参 考



# 売上高推移

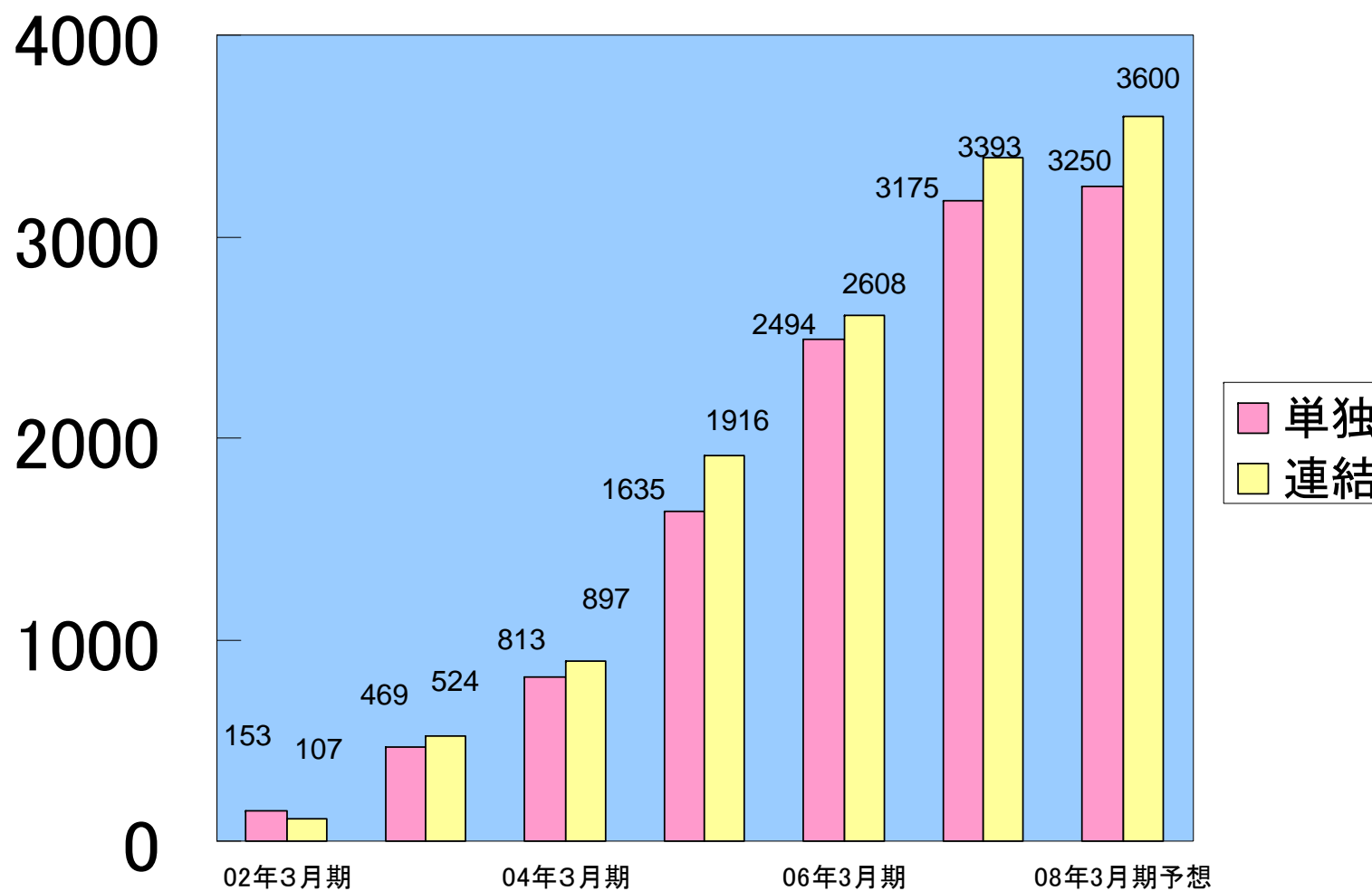
■ 単体 ■ 連結

(単位:百万円)



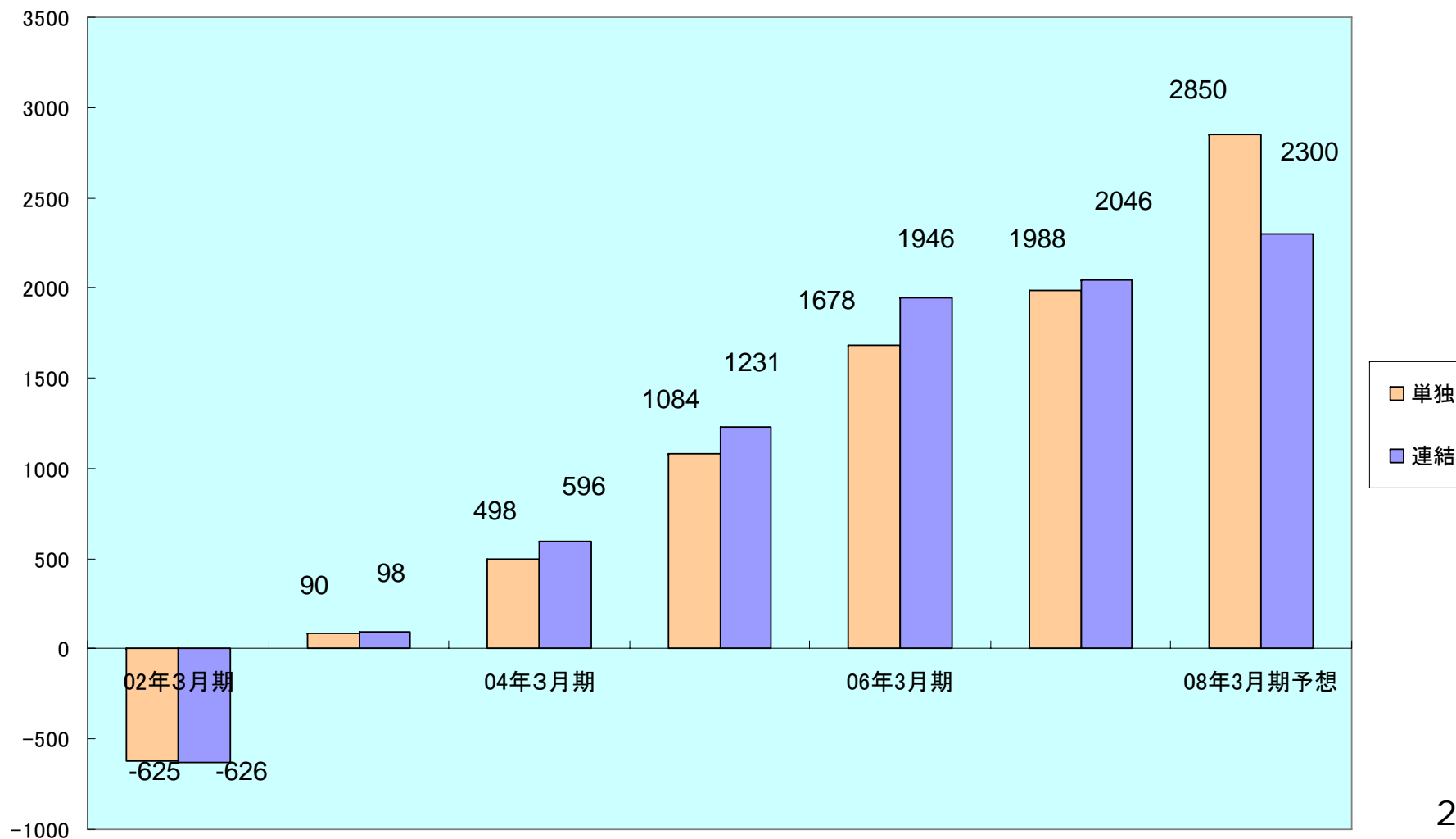
# 経常利益推移

(単位:百万円)

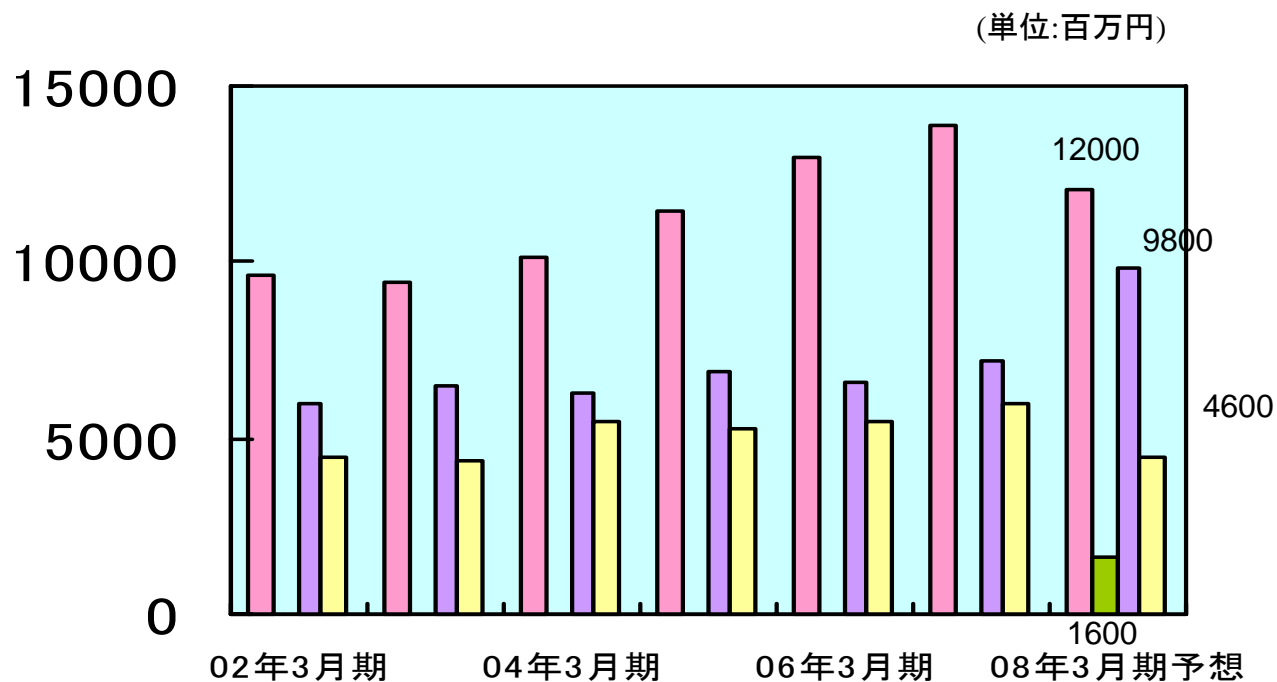


# 当期純利益推移

(単位:百万円)



# 事業別売上高推移



■ 圧縮機
 ■ 真空機器
 ■ 塗装機器
 ■ 塗装設備

注:08年3月期予想は、圧縮機、真空機器、塗装機器、塗装設備の4分類に変更した。  
 また、新事業区分の「塗装機器」は前事業区分の「塗装設備」に含まれていた塗装ブースと塗装乾燥炉を追加した。  
 07年3月期までは圧縮機売上＝圧縮機製品＋真空機器製品

# 当社グループ概要

## 欧州

- ANEST IWATA(U.K)Ltd – イギリス
- ANEST IWATA FRANCE SA-フランス
- ANEST IWATA EUROPE s.r.l-イタリア
- ANEST IWATA italia s.r.l-イタリア
- AIR GUNSA s.r.l. -イタリア
- ANEST IWATA SCANDINAVIA AKTIERBOLAG-スウェーデン

## アジア・オーストラリア

- ANEST IWATA MOTHERSON Ltd.-インド
- ANEST IWATA MOTHERSON COATING EQUIPMENT Ltd.-インド
- ANEST IWATA SEGI Corp-韓国
- ANEST IWATA SOUTH EAST ASIA Co.,Ltd.-タイ
- 嘉興阿耐思特岩田産業機械有限公司-中国
- 阿耐思特岩田産業機械(上海)有限公司-中国
- 東莞阿耐思特岩田機械有限公司-中国
- 上海阿耐思特岩田塗装機械有限公司-中国
- 岩田友嘉精機股份有限公司-台湾
- Cormack AnestIwata pty.Ltd-オーストラリア

## 国内

- アネスト岩田サービス株式会社
- アネスト岩田コーティングサービス株式会社  
(2007年7月から)
- アネスト岩田キャンベル株式会社
- 株式会社アドバン理研
- 株式会社海南

注： アネスト岩田秋田(株)、アネスト岩田福島(株)、アネスト岩田興産(株)の3社は、2007年4月1日付でアネスト岩田(株)に吸収合併いたしました

## 北米

- ANEST IWATA U.S.A.,Inc.-アメリカ
- IWATA MEDIA,Inc.--アメリカ
- Powerex-Iwata Air Technology,Inc.ーアメリカ
- は販売拠点
- は生産・販売拠点

子会社16社(うち海外13社)、関連会社8社(うち海外6社)

## 当社グループ会社所在地





本資料に掲載されている業績見通し、その他今後の予測・戦略に関わる情報は、現時点で当社が入手可能な情報に基づき、判断したものであるため、現実的には、通常予測しえないような特別事情の発生または通常予測しえないような結果の発生等により、本資料記載の業績見通しとは異なる結果を生じ得るリスクを含んでいます。